

## 診療科のご案内

# 消化管内科

Gastroenterology



部長

春日井 邦夫

外来 | 中央棟3F 31外来

得意とする疾患

- 食道癌 胃癌 大腸癌 大腸ポリープ 胃粘膜下腫瘍
- ヘリコバクターピロリ感染症 ● 家族性大腸腺腫症 ● 炎症性腸疾患
- PPIおよびP-CAB抵抗性胃食道逆流症 ● 機能性消化管障害一般
- 過敏性腸疾患群 ● 食道運動異常症

## 診療科の特色

消化管内科では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの幅広い臓器を担当し、さらに各臓器には良悪性腫瘍、機能性疾患、感染症、炎症性疾患など様々な疾患が存在するため、診療科の中でも患者さんの数が非常に多い領域です。当科では専門的知識を有するスタッフが外来、病棟診療に従事しています。また消化器外科、臨床腫瘍センター、放射線科、緩和ケアセンターなどと協力しながら総合的な診断と治療を行っております。

消化管悪性腫瘍に対して、早期癌では粘膜下層剥離術(ESD)を用いた低侵襲な内視鏡治療を積極的に行い、進行癌では毎日のカンファレンスを通して迅速に外科と連携して手術療法を行っています。さらに、エビデンスに基づいた最適な化学療法や免疫療法、QOLを重視した安心安寧な緩和ケア療法を選択することで、最善の治療を目指しています。炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病など)では、栄養療法や白血球除去療法、最新の生物学的製剤などを用いた寛解導入療法を行い、その後も患者さんのライフスタイルにしっかり寄り添いながら寛解維持療法を実施しています。また、胃食道逆流症や機能性消化管障害に対しては専門性の高い最先端の機器を駆使し多角的な検査を行い、病態に応じた適切な治療法を選択しています。また東海地方で唯一食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)を導入し、50例以上の症例で成功を収めています。

胸やけ外来や炎症性腸疾患外来、機能性消化管障害外来、過敏性腸症候群外来、ピロリ外来などの特殊外来は、実地医科において診断・治療に難渋する症例に対し、最先端の医療を提供しております。また当科では、新薬開発の一端を担い論理的かつ科学的に質の高い臨床試験(治験)を治験コーディネーターと共に積極的に実施することを目指しています。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

入院患者	43.7人/日
外来患者	112.7人/日
内視鏡検査総数	9,915件
上部消化管内視鏡検査	4,377件
下部消化管内視鏡検査	2,741件
胃粘膜切除術 (EMR,ESD)	188件
大腸粘膜切除術 (EMR,ESD)	692件
胃ろう (PEG) 造設術・交換	77件
小腸内視鏡	32件
カプセル内視鏡	33件
経口内視鏡的筋層切開術 (POEM)	49件
食道内圧検査	123件
食道pHモニター	24件

## 専門外来

### 炎症性腸疾患外来 (炎症性腸疾患センター)

潰瘍性大腸炎、クローン病に対して、白血球除去療法、抗サイトカイン療法、免疫調整療法、治験など先進医療を行っています。  
 ■ 曜日/月～金 ■ 診療時間/9:00～12:00 (月・火) 14:00～16:00 (水・木・金)  
 ■ 担当者/山口 (火・木) /佐々木 (月・水・金)  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### 胸やけ外来

逆流性食道炎や咽喉頭違和感の患者さんの診断・治療を行います。  
 ■ 曜日/月 ■ 診療時間/14:00～16:00  
 ■ 担当者/春日井 (第1.3.5週) /舟木 (第2.4週)  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### 過敏性腸症候群外来

過敏性腸症候群の診断・治療を行っています。  
 ■ 曜日/月 ■ 診療時間/14:00～16:00  
 ■ 担当者/山本  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### 機能性消化管障害外来

おなかの検査を受けられても特に異常がない、内服されても症状改善に満足がいけない患者さんを中心に診る外来です。  
 ■ 曜日/月 (第1.3.5週) ■ 診療時間/14:00～17:00  
 ■ 担当者/舟木  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### ピロリ外来

ピロリ菌に対して、診断・治療を行っています。  
 ■ 曜日/火 (第1.3週) ■ 診療時間/14:00～16:00  
 ■ 担当者/足立 (第1週) /加藤 (第3週)  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### 消化管腫瘍外来

食道・胃・大腸の腫瘍の診断・治療を行っています。  
 ■ 曜日/火 ■ 診療時間/13:30～17:00  
 ■ 担当者/海老  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

### アカラシア外来

アカラシアの患者さんに対して、診断・治療を行っています。  
 ■ 曜日/金 ■ 診療時間/13:30～16:00  
 ■ 担当者/井澤  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
春日井邦夫	教授 部長	消化器病学(消化管)
佐々木誠人	教授(特任) 副部長	消化器病学(消化管) 炎症性腸疾患病態解明ならびに新規治療法の開発
小笠原尚高	教授(特任) 副部長	消化器病学(消化管)
舟木康	准教授 副部長	消化器病学(消化管)
海老正秀	准教授(特任)	消化器病学(消化管)
山本さゆり	准教授(特任)(兼務)	消化器病学(消化管)
井澤普也	講師	消化器病学(消化管)
田村泰弘	助教	消化器病学(消化管)
山口純治	助教	消化器病学(消化管)
足立和規	助教	消化器病学(消化管)
杉山智哉	助教	消化器病学(消化管)
山本和弘	医員助教	消化器病学(消化管)
長尾一寛	医員助教	消化器病学(消化管)
吉峰尚子	医員助教	消化器病学(消化管)

## 紹介のポイント

消化管内科は消化管(食道・胃・小腸・大腸)領域の全ての消化器系疾患を網羅しています。腹部症状で難渋する患者さんや、特殊検査が必要な患者さんはお気軽にご紹介ください。

- 消化管の早期がんに対する粘膜下層剥離術(ESD)が必要な症例。
- 消化管の進行がんに対する化学療法などの最善の治療が必要な症例。
- 下痢、腹痛、血便が続き炎症性腸疾患が疑われる症例。
- 難治性や専門治療を希望する胸やけを訴える症例、過敏性腸症候群の症例、機能性消化管障害の症例。
- 原因不明の消化管出血など小腸病変を疑う症例。
- ピロリ菌の1次、2次除菌の不成功症例やペニシリンアレルギーで通常のピロリ菌除菌が受けられない症例。
- 食道アカラシアの疑いあるいは診断された症例

担当医	職名	専門分野
越野顕	医員助教	消化器病学(消化管)
小野聡	医員助教	消化器病学(消化管)
加藤駿介	医員助教	消化器病学(消化管)
高山将旭	医員助教	消化器病学(消化管)
杉村明佳音	医員助教	消化器病学(消化管)
加藤綾	医員助教	消化器病学(消化管)
田代崇	医員助教	消化器病学(消化管)
加藤真子	医員助教	消化器病学(消化管)
東美佳	専修医	消化器病学(消化管)
伊藤千晴	専修医	消化器病学(消化管)
大島みどり梨	専修医	消化器病学(消化管)
三輪峻大	専修医	消化器病学(消化管)
井上智司	非常勤	消化器病学(消化管)
川村百合加	非常勤	消化器病学(消化管)

\*日本消化器病学会専門医 %日本消化器病学会指導医 b日本消化器内視鏡学会専門医  
 ♪日本消化器内視鏡学会指導医 !日本消化管学会胃腸科専門医

# 肝胆膵内科

Hepatology and Pancreatology



部長

米田 政志

外来 | 中央棟3F 31外来

得意とする疾患

- C型慢性肝炎、肝硬変および肝臓癌
- B型肝炎キャリア、慢性肝炎、肝硬変および肝臓癌
- 脂肪肝 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) ● 閉塞性黄疸 (胆石、狭窄)
- 膵腫瘍 (膵癌) 等 ● 胆道腫瘍 (胆管癌、胆のう癌)
- 膵炎 (急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎)

## 診療科の特色

肝胆膵内科では、肝臓グループ、胆膵グループの2つのグループにより診療を行っています。肝臓グループは、肝疾患診療連携拠点病院の一員としてウイルス性肝炎、脂肪肝、自己免疫性肝炎、肝硬変、肝臓癌といった肝臓疾患に豊富な知識、経験を有する肝臓専門医を中心に、地域の肝疾患専門医療機関やかかりつけの先生方と連携しながら診断・治療にあたっています。特に、C型肝炎に対しては必要に応じて経口直接作用型抗ウイルス剤 (DAAs : direct-acting antiviral agents) を中心として飲み薬のみの治療を行い、B型肝炎に対しては核酸アナログ製剤やインターフェロンによる抗ウイルス療法を行っています。また、B型肝炎に対する新薬の開発に積極的に取り組んでいます。さらには、メタボリックシンドロームとの関連で注目されている脂肪肝や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の診断と治療にも取り組み、世界をリードする成果を上げています。肝臓癌に対しては、侵襲の少ない経皮的局所療法 (ラジオ波など)、アテゾリズマブやベバシズマブなどの免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬による治療、外科や放射線科と連携した手術やカテーテル治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

胆膵グループは、胆道感染症、閉塞性黄疸に対する内視鏡的もしくは経皮的なドレナージ術、胆管結石に対する内視鏡的胆管結石除去術等を行っています。胆道癌や膵臓癌に対しては、CT、MRI、超音波内視鏡 (EUS)、超音波内視鏡下穿刺法 (EUS-FNA) 等の最新の機器を駆使して、積極的に診断や治療にあたっています。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

1) 入院患者	35.0人/日
2) 外来患者	101.9人/日
3) 超音波内視鏡検査 (EUS)	737件
4) 超音波内視鏡下穿刺吸引生検 (EUS-FNA)	133件
5) 超音波内視鏡下瘻孔形成術	58件
6) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP)	798件
7) 小腸内視鏡下ERCP	45件
8) 食道静脈瘤硬化療法・結紮術 (EIS・EVL)	42件
9) C型肝炎に対する経口直接作用型抗ウイルス剤 (DAAs) 治療	17件
10) 経皮的ラジオ波焼灼術 (RFA)	9件
11) 肝腫瘍生検・肝生検	70件
12) 造影超音波検査 (ソナゾイド)	16件
13) 経皮的肝動脈塞栓術 (TAE)	41件

## 専門外来

### 慢性肝疾患/脂肪肝外来

肝硬変症、肝臓がんなど各種慢性肝疾患の診断・治療と脂肪肝の原因検索に加え、メタボリック症候群を考慮した包括的な診断と治療を行っています。  
 ■ 曜日/火・水  
 ■ 診療時間/14:00~16:00 (火)、9:00~11:30 (水)  
 ■ 担当者/米田 政志 (火)、角田 圭雄 (水)  
 ■ 紹介方法/再診患者のみのため、一度、一般外来にご紹介ください。

### ウイルス性肝疾患外来

B型、C型肝炎などウイルス性肝疾患の患者さんの診断・治療を行っています。  
 ■ 曜日/木・金  
 ■ 診療時間/14:00~16:00 (木・金)  
 ■ 担当者/伊藤 清顕 (第1、3金)、中出 幸臣 (第2、4木)  
 ■ 紹介方法/再診患者のみのため、一度、一般外来にご紹介ください。

### 膵・胆道腫瘍外来

膵がん、胆道がん (胆管がん、胆嚢がん) と診断された方や、疑われる方を対象とした外来です (その他の膵・胆道腫瘍にも対応しています)。  
 ■ 曜日/月・水  
 ■ 診療時間/11:00~ (月)、9:00 (水)  
 ■ 担当者/井上 匡央  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

## 紹介のポイント

B型肝炎やC型肝炎に対して、副作用の少なく効果の高い新しい治療薬が次々に出現しています。これらの治療を行うには、ウイルスの遺伝子型検査や遺伝子変異等の詳細な検査をして治療を行う必要があります。ウイルス性肝炎の患者さんに関しましては、今後の検査や治療の計画を立てるために一度は肝臓専門医に御相談ください。また、現在増加している肥満による脂肪肝に関しては、1割程度の患者さんが進行性の非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) であることがわかってきました。NASHかどうか診断するには、現在のところ肝臓に針を刺して組織を採取する肝生検でしか診断できません。肝生検が必要かどうかは、血液

検査、腹部エコー検査、肝臓の線維化を判定するファイブロスキャン等の結果を総合的に判断して決定する必要があります。NASHは肝硬変や肝臓癌の原因になることもありますので、脂肪肝の患者さんに関しても一度御相談ください。肝臓癌に対しては、我々は経皮的局所療法 (ラジオ波など) を中心に、外科や放射線科と連携して手術やカテーテル治療を組み合わせた集学的治療を行っています。腹部エコー等で肝臓の腫瘍が疑われる場合には、早急に御相談ください。

胆道癌や膵臓癌に対しては、CT、MRI、超音波内視鏡 (EUS)、超音波内視鏡下穿刺法 (EUS-FNA) 等の最新の診断法を駆使して、積極的に診断や治療にあたっています。これらの難治性腫瘍に関しましては、早期発見、早期治療がたいへん重要です。腹痛、背部痛、黄疸など胆膵疾患を疑う所見を認める患者さんに関しましては、早急に御相談ください。

また、当科ホームページでも診療内容の紹介をさせて頂いておりますので是非ご覧下さい。  
 (URL: <https://aichi-med-hbp.jp/>)

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野	認定医・専門医等
米田 政志	教授 部長	消化器病学 (肝臓)	日本内科学会認定内科医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医
伊藤 清顕	教授 (特任) 副部長	消化器病学 (肝胆膵)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 / 日本肝臓学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
中出 幸臣	教授 (特任)	消化器病学 (肝臓)	日本内科学会認定内科医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医・指導医
角田 圭雄	准教授 (特任)	消化器病学 (肝臓)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医
小林 佑次	准教授 (特任)	消化器病学 (胆膵)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 / 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
井上 匡央	講師	消化器病学 (胆膵)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 / 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本胆道学会指導医 / 日本肝臓学会指導医 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
坂本 和賢	助教	消化器病学 (肝臓)	日本内科学会認定内科医
北野 礼奈	助教	消化器病学 (胆膵)	日本内科学会認定内科医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
木本 慧	医員助教	消化器病学 (肝臓)	
指宿 麻悠	医員助教	消化器病学 (胆膵)	
福沢 嘉孝	教授 (特任・総合医療センター) (兼務)	消化器病学 (肝臓)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 / 日本肝臓学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

# 循環器内科

Cardiology

外来 | 中央棟 2F 28 外来

部長

天野 哲也



得意とする疾患

- 冠動脈疾患（狭心症・心筋梗塞） ● 動脈硬化症 ● 不整脈全般（心電図異常）
- 心不全（心電図異常：左脚ブロック、左室肥大／胸部レントゲン：心拡大）
- 心臓弁膜症

## 診療科の特色

循環器内科では虚血性心疾患・不整脈・心不全・高血圧症等の循環器疾患全般にわたる治療を行っています。心臓疾患には緊急性を要するものが多いことから、我々は24時間いつでも適切な医療を提供できる体制を整えています。また短期入院・早期社会復帰のポリシーでチーム医療に取り組んでいます。

緊急性を要する急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対しては24時間いつでも冠動脈造影検査を開始し、経皮的冠動脈形成術・ステント植え込み術を行うことが可能です。

狭心症が疑われる患者さんには、心筋シンチグラフィによる非侵襲的検査による評価も行っています。また外来を受診される患者さんに対しては虚血性心疾患の危険因子といわれる高血圧症・高コレステロール血症・糖尿病の治療を早期より積極的に行います。

不整脈領域では頻脈性不整脈に対しては経皮的カテーテル心筋焼灼術（アブレーション）による薬剤に頼らない治療を積極的に行い、不整脈発作に伴う不安を改善することに努めています。心室頻拍や心室細動など心臓突然死の原因となる疾患に対しては植え込み型除細動器の植え込み手術も行っています。

徐脈性不整脈に対してはペースメーカーの植え込み手術を行う事によりQuality of life（生活の質）の向上に努めています。

また構造的な心疾患に対する治療として、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）を施行しております。高齢化に伴い侵襲的手術困難な心疾患患者さんにおいても良好な成績を取っており、当院の特徴的治療のひとつでもあります。

循環器疾患全般への治療を目的としてスタッフのチームワークを確立し、患者さんの状態にあった適切な治療を提供できることを目指しています。

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

○外来患者数（1日平均）	103.9人
○入院患者数（1日平均）	34.5人

- 虚血性心疾患に対し、年間800例の冠動脈造影検査と300例の経皮的冠動脈形成術やステント植え込み術を施行しています。
- 不整脈に対する心臓電気生理学的検査（EPS）を行っています。徐脈性不整脈に対してはリードレスペースメーカーを含めたペースメーカーの植え込み手術を年間60例施行しています。頻脈性不整脈発作に対してはカテーテルアブレーションを年間250例施行しています。適応は発作性上室性頻拍症、心房粗動、心房頻拍、発作性心房細動、心室頻拍、心室細動、等です。また心室細動等の致死性不整脈に対しては植え込み型除細動器の植え込み手術を行い、また心不全に対し再同期療法を合わせて年間10例行っています。
- 大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）を行っています。2017年6月より治療開始し、現在まで約88例施行しております。
- 年間226例の心臓核医学検査を施行して狭心症や心筋症の診断を行い、治療方針の決定や治療効果判定を行っています。
- 高血圧患者さんの診療により、脳卒中・虚血性心疾患・腎障害などの合併症の予防に努めています

## 紹介のポイント

急性心筋梗塞・不安定狭心症、急性心不全、等の緊急性を要する疾患については、24時間対応しております。担当医の専門分野と外来診察日を参考に紹介ください。

## その他

### ●地域医療連携への取り組み

循環器内科では、病診連携（愛知医科大学とその他の医療施設との連携）を極めて重視しております。当院全体と

しての“地域医療連携室”を軸として、積極的に地域の医療連携に取り組みます。患者さんのご紹介は24時間いつでも受け付けております。（循内ホットライン070-6957-5105）

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
アmano テツヤ 天野 哲也 ※!	教授 部長	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション 閉塞性動脈硬化症
タカシマ ヒロアキ 高島 浩明 ※!	教授(特任) 副部長	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション 閉塞性動脈硬化症
ワセダ カツヒサ 早稲田勝久 ※	教授(兼務)	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション 冠動脈イメージング・医学教育
スズキ ヤスシ 鈴木 靖司 ※%	教授(特任) 副部長	不整脈・カテーテルアブレーション・心臓植込デバイス治療
アンドウ ヒロヒコ 安藤 博彦 ※!	准教授 副部長	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション
ナカノ ユウスケ 中野 雄介 ※	准教授 医局長	心不全全般
サクライシンイチロウ 櫻井慎一郎 ※	准教授(特任)	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション
スズキ アキヒロ 鈴木 昭博 ※♪	講師 外来医長	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション・閉塞性動脈硬化症
クニムラ アヤコ 国村 彩子 ※♪	助教	循環器一般
ゴトウ レイジ 後藤 礼司 ※♪	助教	循環器一般・感染症全般
サワダ ヒロアキ 沢田 博章 ※♪	助教 病棟医長	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション
ナイトウ カズヒロ 内藤 千裕 ※	助教	循環器一般・不整脈
フジモト マサノブ 藤本 匡伸 ※♪	助教	循環器一般・経カテーテル大動脈弁置換術(TAVR)
オオハシ ヒロフミ 大橋 寛史 ※♪	助教	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション
イズミ カズヒロ 泉 和宏 ♪	医員助教	循環器一般
オオニシ トモヒロ 大西 知広 ※	医員助教	循環器一般・心臓リハビリ
クノ シンペイ 久野 晋平 ※	医員助教	循環器一般・不整脈
ツカモト ナリコ 塚本名里子 ※	医員助教	循環器一般
マツオ ユキカ 松尾 幸果 ※♪	医員助教	循環器一般
ワタベ ケイシ 渡部 圭史	専修医	循環器一般
キクチ ケント 菊池 健人	専修医	循環器一般
ヤマダ スミオ 山田 純生	特命教授	心臓リハビリ
フクタ モトユキ 福田 元敬 ※	客員教授	不整脈・ペースメーカー

※日本循環器学会専門医    %日本不整脈心電学会認定不整脈専門医    ♪日本心血管インターベンション治療学会認定医  
!日本心血管インターベンション治療学会専門医

# 呼吸器・アレルギー内科

Respiratory Medicine and Allergology



部長  
伊藤 理

外来 | 中央棟 2F 28外来

得意とする疾患 | ● 気管支喘息・呼吸器アレルギー ● 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) ● 肺癌 ● 肺胞蛋白症 ● 間質性肺炎 ● 呼吸器感染症 ● サルコイドーシス

## 診療科の特色

当科は呼吸器疾患全般にわたって診療を行います。特に、気管支喘息や気道アレルギー、サルコイドーシスや間質性肺炎・膠原病肺・肺胞蛋白症などのアレルギー・免疫性呼吸器疾患、COPDの診療と研究、そしてがん死亡率のトップにある肺がんの診断と化学療法を得意としています。

当科では、上記の呼吸器疾患をはじめ肺炎等でそれぞれ提唱されている治療・管理ガイドラインに沿った診療を行っています。エビデンスに基づいた診療と同時に、患者さん個々の事情に応じたきめの細かい医療を常に提供することを信条としています。

当科は、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会の認定教育（または指導）施設になっています。西日本がん研究機構 (WJOG) および中日本呼吸器臨床研究機構 (CJLSG) それぞれの登録施設になっており、患者さんのQOLと予後が少しでも改善するよう、大学病院にふさわしい高いレベルの総合的な呼吸器疾患診療と研究を実践しています。

重症難治性喘息に対しては、適応があれば抗IgE/IL-5/IL-5R $\alpha$ /IL-4R $\alpha$ 抗体治療を積極的に導入しています。吸入指導や吸入薬の選択など、きめの細かい指導を徹底し、喘息の重症化や喘息死を減らす努力を重ねています。また当科は東海地区における肺胞蛋白症のセンター施設の役割を果たしており、重症例や進行の診療を行っています。難治例では麻酔科の協力を得て、全身麻酔下の全肺洗浄を数多く行っています。肺がんの診療については、患者さんごとのがんの遺伝子異常に対応する個別化医療を重視し、それぞれの患者さんに応じた分子標的治療、免疫療法、抗がん剤治療等を行っています。2019年には本邦でもがんのゲノム医療が始まり、当科においてもがんゲノム医療を

積極的に取り入れています。同時に外来での薬物療法を積極的に活用し、患者さんにはできるだけ自宅での療養生活を送れるよう配慮しています。診断面では、従来の気管支鏡診断が困難であった肺末梢の微小病変や、リンパ節などの気管支外病変に対しても超音波気管支鏡を用いた診断が可能になっています。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

- I. 平均外来受診者数 (1日平均) : 69.4人
- II. 平均入院患者数 (1日平均) : 45.3人 (新入院患者数 1,020人)
- III. 入院患者疾患内訳
  - ①肺がん・呼吸器腫瘍
  - ②気管支喘息
  - ③肺炎・呼吸器感染症 (含新型コロナウイルス肺炎)
  - ④間質性肺炎などのびまん性肺疾患 (好酸球性肺炎や過敏性肺臓炎も含む)
  - ⑤COPD・慢性呼吸不全の急性増悪
  - ⑥呼吸リハビリテーション、在宅酸素導入
  - ⑦肺胞蛋白症
  - ⑧気管支鏡・CTガイド下肺生検  
検査件数 : 342件 (月平均 28.5件)

## 特殊検査・治療／特殊医療機器

- ①極細気管支鏡を用いた経気管支生検 (マルチスライスCTによって構成したバーチャル気管支鏡像をナビゲーションとして施行) : 肺末梢微小病変 (特に早期肺がん) の確定診断
- ②超音波気管支内視鏡 : 肺野末梢病変縦隔・肺門部の気管支外病変 (腫大リンパ節や腫瘍) に対する診断
- ③全肺洗浄

### 特殊医療機器

- ①アルゴンプラズマレーザー発生装置 : 腫瘍や炎症性ポリープによる気道内占拠病変の焼灼・除去
- ②高周波スネア装置 : 腫瘍や炎症性ポリープによる気道内占拠病変の焼灼・除去
- ③気管・気管支ステント : 腫瘍や炎症性疾患による生命に関わる気道狭窄に対する緊急あるいは待機的治療 (呼吸器外科と共同で対応)
- ④Endobronchial Watanabe Spigotによる難治性気胸や気道出血治療

## 紹介のポイント

胸部異常影をはじめとし、入院や精査が必要な呼吸器疾患の患者さんは、的確かつ迅速に対応致します。特に、コントロールが困難ないわゆる難治喘息症例、労作時呼吸困難が続く症例、肺がん、肺胞蛋白症、サルコイドーシスは当科の重点診療疾患でもありますので、該当症例がございましたら是非ともご紹介頂ければ幸いです。外来でのコントロールが可能になりました症例に関しては、原則ご紹介頂きました先生へ逆紹介させていただきます。ご紹介はどの呼吸器スタッフでも結構ですが、スタッフの専門領域一覽も記載しておりますので、ご紹介の際のご参考にして頂ければと思います。

令和4年7月1日現在

## スタッフ紹介

担当医	職名	専門分野
イトウ 伊藤 理	教授 部長	呼吸器疾患全般、呼吸器アレルギー
クボ 久保 昭仁	教授 (兼務)	呼吸器疾患全般、特に以下の領域 1) 肺がんの化学療法 2) 臨床腫瘍学、臨床試験 3) 胸部悪性腫瘍の診断・治療 4) 緩和医療
ヤマグチ 山口 悦郎	特命教授 (兼務)	呼吸器疾患全般、特に以下の領域 1) サルコイドーシス 2) 肺胞蛋白症
ババ 馬場 研二	特命教授 (兼務)	呼吸器疾患全般、特に慢性・難治性咳嗽、気管支喘息、COPD、間質性肺炎
カジカワ 梶川 茂久	准教授 (特任) 副部長 病棟医長	呼吸器疾患全般、気管支鏡技術
タナカ 田中 博之	准教授 (特任) 副部長 医局長	呼吸器疾患全般、特に以下の領域 1) 呼吸器感染症 2) 気管支鏡技術
カトウ 加藤 俊夫	准教授 (特任) 副部長	呼吸器疾患全般、特に以下の領域 1) 肺癌の診断と治療 2) 気管支鏡技術
カワイ 河合 聖子	講師 (兼務)	呼吸器疾患全般、アレルギー性疾患
マツバラ 松原 彩子	助教	呼吸器疾患全般
カタノ 片野 拓馬	助教	呼吸器疾患全般、特に以下の領域 1) 間質性肺炎
オギス 荻須 智之	助教 外来医長	呼吸器疾患全般
フカミ 深見 正弥	助教	呼吸器疾患全般
カトウ 加藤 康孝	助教	呼吸器疾患全般
アマノ 天野 瞳	専修医	呼吸器疾患全般
カコ 加古 瞳	専修医	呼吸器疾患全般
ミヤラ 宮良 沙織	専修医	呼吸器疾患全般
ヤマグチ 山口 晃子	専修医	呼吸器疾患全般
シバタ 柴田 絹子	専修医	呼吸器疾患全般
オンダ 恩田 優香	専修医	呼吸器疾患全般

※日本呼吸器学会専門医    %日本呼吸器学会指導医    ♪日本アレルギー学会専門医    !日本アレルギー学会指導医  
+日本臨床腫瘍学会がん薬物療養専門医・指導医    †日本気管支内視鏡学会気管支鏡専門医    ‡日本気管支内視鏡学会気管支鏡指導医  
\$臨床遺伝専門医

# 内分泌・代謝内科

Endocrinology and Metabolism

外来 | 中央棟 2F 28 外来

得意とする疾患

- 間脳・下垂体疾患
- 甲状腺疾患
- 骨粗鬆症
- 遺伝子疾患
- 家族性腫瘍
- 遺伝カウンセリング
- 男性性腺機能低下症
- 副腎腫瘍
- 肥満症

## 診療科の特色

愛知医科大学病院の内分泌・代謝内科は、内分泌・代謝、糖尿病と、遺伝疾患の全領域にまたがる診療を行っています。

日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会の認定専門施設、臨床遺伝専門医の認定研修施設として、日々、診療・教育に務めています。

内分泌疾患では、主要な内分泌腺である視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺が産生する、全てのホルモンの分泌異常症および分泌臓器の病変を対象としています。当科ほど内分泌代謝疾患に特化した科は全国でも少なく、下垂体機能低下症の患者さんの人数は、全国でも突出しています。代謝疾患では、種々の原因による肥満症や脂質代謝異常症、骨粗鬆症およびカルシウム代謝異常、糖尿病、メタボリックシンドローム等を主な対象とし、原因精査から治療までの専門的診療を行っています。高齢者社会における大きな問題である骨粗鬆症、小児の成長に関連した低身長外来、成人成長ホルモンおよび下垂体疾患の、専門外来を開設しています。

さらに、私たちの診療科は、臨床遺伝をもう一つの専門としており、遺伝子に関係した疾患や不安をもつ患者さんの診療を実践しています。ヒトゲノムの解析が進化した今日の診療において、疾患と遺伝を切り離して患者さんに向き合う事は困難です。当科は、当院の遺伝診療の受け入れ口となるべく、20年前に遺伝外来を開設しました。当初は、内分泌代謝疾患および家族性腫瘍を中心とした診療を行っておりましたが、現在は、遺伝に関する全ての疾患において他領域の疾患や染色体異常症、あるいは次世代への遺伝性を心配される方などをご紹介頂いております。外来では、臨床遺伝総合診療外来で、予約制により、臨床遺伝専門医・指導医による遺伝カウンセリング、家族性腫瘍専門医と総合内科専門医による診療を併せて行っています。今後も地域医療連携を介して、諸先生方々の暖かいご支援の元、内分泌代謝疾患の患者さん達や、遺伝に悩む方々の気持ちに寄り添った治療を実践し、医局員一丸となり、社会貢献に力を尽くしていく所存です。

## 診療内容

内分泌代謝領域では、内分泌代謝専門医、甲状腺専門医、骨粗鬆症認定医、腎臓専門医、総合内科専門医、内科認定医が、多岐に亘る内分泌代謝疾患の診療を行っています。様々なホルモンの分泌異常の原因精査と治療を行います。

分泌異常の詳しい検査が必要な場合は、数日から10日程度の入院精査をお勧めする場合があります。高度の甲状腺機能障害を有するため入院管理が望ましい方、バセドウ病に対するアイソトープ治療が目的の方（外来で可能だが入院希望の方が多い）や、消耗が激しく入院管理が必要な方、副腎や下垂体ホルモン分泌異常が疑われる方達が主な入院患者さんです。特に下垂体機能異常は、厚生労働省指定の特定疾患であり、疾患により中等度から重症例が難病として承認されます。治療の適応には、厳格な負荷試験による確定診断が必要です。入院下での精査をお勧めする事により、愛知県唯一の難病拠点病院である当院の、内分泌・代謝内科としての責任を担うべく努めています。

一方、内分泌器官、おもに甲状腺の占拠性病変に対しては、殆どの患者さんに対して、外来で鑑別診断のための精査を致します。内分泌内科での定期的経過観察、外科への適切な紹介、また術後のフォローアップと補充療法を行います。甲状腺の占拠性病変の頻度は高く、経過観察となる患者さんが多く存在します。

遺伝診療領域では、保険診療と自費診療を実地しています。ご紹介頂く患者さんの疾患が、保険収載されたものかどうかにより、診療形態が異なります。また、診療内容は、臨床遺伝専門医指導医による遺伝カウンセリング、診察、各科の適切な専門医に対するコンサルテーションに基づく臨床診断の確立、遺伝学的検査の実施又は非実施、紹介医と連携したフォローアップ、という流れで行われます。特に遺伝カウンセリングに関しては、診療形態に関わらず、遺伝学的検査を行う前に、遺伝カウンセリングを実地する事が必須とされています。ご紹介頂いた患者さん（クライアント）に対して、遺伝学的知識、遺伝学的検査を受ける事によるメリットとデメリット等に関する情報提供を行い、遺伝に関連した問題に悩む患者さんのサポートを行います。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

○外来患者数 (1日平均)	63.4人
○入院患者数 (1日平均)	2.1人

- 診療内容 (疾患別)
- ①間脳下垂体疾患  
低身長症、下垂体前葉機能低下症、中枢性尿崩症、中枢性肥満症、巨人症、先端巨大症、クッシング病、思春期遅発症、低ゴナドトロピン性男性性腺機能低下症、視床下部または下垂体性無月経、女性化乳房、神経性食欲不振症等。原因疾患として、下垂体腫瘍、頭蓋咽頭腫、ラトケ嚢胞、トルコ鞍空洞症、リンパ球性下垂体炎等。
  - ②甲状腺疾患  
自己免疫性甲状腺炎（バセドウ病・無痛性甲状腺炎・橋本病急性増悪等）、亜急性甲状腺炎、プランマー病、腺腫様甲状腺腫、甲状腺腫瘍（腺腫・癌）等。
  - ③副甲状腺およびCa代謝疾患  
副甲状腺機能亢進症（原発性・腎性・続発性）・低下症、副甲状腺腫瘍（腺腫・癌）、偽性副甲状腺機能低下症、骨粗鬆症、骨軟化症、骨形成異常症等。
  - ④副腎疾患  
原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、AIMAH、副腎腫瘍（非機能性・腺腫・皮質癌）等。
  - ⑤性腺疾患  
原発性および続発性性腺の器質・機能異常。
  - ⑥遺伝子疾患  
染色体異常症（クラインフェルター症候群、ダウン症候群、ターナー症候群等）、家族性腫瘍（乳がん・大腸がん・多発性内分泌腫瘍症等）、遺伝性副甲状腺疾患、家族性高コレステロール血症、ムコ多糖症、カルマン症候群、プラダー・ウィリ症候群等。

## スタッフ紹介

担当医	職名	専門分野
高木 潤子 タカギ ジュンコ	教授(特任) 副部長 医局長	内分泌・代謝・糖尿病 (下垂体、尿崩症、成長ホルモン、骨粗鬆症、副甲状腺疾患、甲状腺疾患) 臨床遺伝
野村 由佳 ノムラ ユカ	助教 病棟医長	内分泌・代謝・糖尿病
平瀬 翔 ヒラセ ショウ	助教	内分泌・代謝・糖尿病 臨床遺伝
羽田野雄揮 ハタノ ユウキ	専修医	内分泌・代謝・糖尿病
大竹 千生 オオtake カズオ	名誉教授	内分泌・代謝・糖尿病 (下垂体、尿崩症、甲状腺) 成長ホルモン、骨粗鬆症、臨床遺伝
岡林 直実 オカバシ ナオミ	講師(非常勤)	糖尿病
森田 博之 モリタ ヒロユキ	客員教授	内分泌・代謝 臨床遺伝

♪ 内分泌代謝専門医    ■ 内分泌代謝指導医    ♪ 臨床遺伝専門医    □ 臨床遺伝指導医    ♪ 家族性腫瘍専門医    ♪ 骨粗鬆症認定医  
 # 臨床検査専門医・指導医    ● 臨床検査専門医・管理医    \$ 日本病態栄養学会専門医・指導医    b 脳卒中専門医    ※ 日本内科学会認定医  
 % 日本内科学会総合専門医    △ 腎臓専門医    ○ 甲状腺専門医    ¥ 糖尿病専門医

## 専門外来

**臨床遺伝 総合診療外来**

遺伝・遺伝子検査に関する紹介全般。  
 ■ 曜 日/月・金  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

**低身長/成長ホルモン外来**

低身長に対する精査、治療。成人成長ホルモン分泌不全症。  
 ■ 曜 日/月・火・水・木  
 ■ 診療時間/月・火:13:00~16:00、水:15:00~16:00  
 木:14:00~16:00  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

**骨粗鬆症外来**

骨密度の測定、骨粗鬆症の診断と治療。栄養指導。カルシウム代謝異常症・骨形成異常の診断と治療。  
 ■ 曜 日/月・火・木  
 ■ 診療時間/ 13:00~16:00  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

**遺伝診療内分泌内科**

専門性の高い内分泌疾患と遺伝子疾患の診療。  
 ■ 曜 日/月~金 適宜実施しておりますのでご相談下さい。  
 ■ 診療時間/ (完全予約制)  
 ■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。直接のご相談にも対応いたします。

## 紹介のポイント

- ①内分泌代謝疾患が疑われ、専門科での診療が望ましいと考えられる方
- ②内分泌と関連しないが、遺伝子疾患が疑われる方  
当科へご紹介ください。フレキシブルな対応・診療を行います。

令和4年7月1日現在

# 神経内科

Neurology



部長  
道勇 学

外来 | 中央棟3F 35外来

得意とする疾患 | ● 認知症 ● 神経変性疾患 ● 脳卒中

## 診療科の特色

診療領域は神経疾患全般を網羅しており、特に平成19年度からは脳卒中センターが開設され、脳梗塞、脳出血を中心とした脳卒中急性期診療体制の強化と地域医療連携体制の充実が図られています。また本学は愛知県難病ネットワークの拠点病院であり、神経変性疾患を中心とした難病医療の社会的側面にも深く貢献しています。加えて本学は研究教育機関として神経変性疾患・筋疾患研究に邁進し、その成果を社会に還元するとともに、学生教育、研修医教育、神経内科専門医教育を精力的に実践し、現代社会の求める後継医師の育成に努めています。

## 診療内容

大脳皮質変性疾患（アルツハイマー病、大脳皮質基底核変性症、レビー小体病など）、錐体路変性疾患（筋萎縮性側索硬化症、球脊髄性筋萎縮症、原発性側索硬化症など）、基底核中脳変性疾患（パーキンソン病、進行性核上性麻痺、ハンチントン病など）、小脳脳幹脊髄変性疾患（多系統萎縮症、遺伝性脊髄小脳変性症など）、脱髄疾患（多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎など）、神経系感染症（辺縁系脳炎、髄膜炎など）、脳血管障害（脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作、一過性全健忘、脳血管性認知症など）、栄養障害（アルコール脳症、ウェルニッケ脳症、糖尿病性ニューロパチーなど）、代謝異常（ミトコンドリア脳筋症；CPEO、MERRF、MELASなど）、脊髄疾患（頸椎症性脊髄症、HTLV-1関連脊髄症〔HAM〕、脊髄梗塞など）、末梢神経疾患（CIDP、AIDP〔ギラン-バレー症候群〕、クロー-深瀬症候群、CMT、FAPなど）、神経筋接合部・筋疾患（重症筋無力症、皮膚筋炎、多発筋炎など）、機能的疾患（てんかん、不随意運動など）、内科疾患の神経合併症（サ

ルコイドーシス、傍腫瘍性症候群、甲状腺機能亢進症など）、その他（低髄圧症候群、正常圧水頭症、トローザ-ハント症候群など）。

種々の神経疾患、特にパーキンソン病や脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを代表とする神経変性疾患による症候・症状は患者の日常生活動作・能力に直接大きく影響することから、各疾患の治療ガイドラインに基づく治療を駆使するだけでなく、丹念な診察の積み重ねによる予後予測を行うとともに、病期に対応した日常生活指導、精神的サポートを提供していくことを当教室の信条として神経内科専門診療を実践しています。また主治医は患者・家族に対する社会的サポートにも積極的に参画し、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、保健師との連携を密にとり、患者・家族のQOL向上に努めています。

遺伝性神経疾患については、近隣大学間で連携して、神経内科学を専門とする数少ない学外臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリングを積極的に取り入れた神経疾患診療を実践しています。

脳卒中診療は、救命救急医のトリアージを経て神経内科当番医が診察します。神経学的所見、CT所見、MRI / MRA所見、血液検査所見を含む身体諸検査所見を基に病型診断、およびt-PA静注、血管内治療による超急性期血栓溶解治療を含む抗血栓療法治療を迅速かつ適切に行っています。また平成20年度は病棟内に急性期リハビリ室が設置され、より早期からの重点的急性期リハビリテーションが実現することとなりました。

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

- 外来患者数（脳卒中外来を含む1日平均）75.1人
- 入院患者数（脳卒中センター入院を含む1日平均）49.1人
- 病床数 21床（脳卒中センター病床数20床）

## 特殊検査・治療／特殊医療機器

MRI、CT、SPECT、血管撮影、超音波（心エコーを含む全身用および経頭蓋ドップラー）、脳波、筋電図など、神経疾患診療に必要な医療設備を完備しています。CT、MRI / MRAは24時間緊急対応可能であり、脳卒中急性期診療をはじめとする神経疾患救急医療に威力を発揮しています。

## 専門外来

### 脳機能検査外来

認知症の診断のための各種の検査、治療を行います。  
 ■ 曜日/月 ■ 診療時間/ 13:00～16:00  
 ■ 担当者/泉 雅之  
 ■ 紹介方法/再診患者が主のため、事前に認知症疾患医療センターにご紹介ください。

### 神経核内封入体病（NIID）外来

NIIDの診断のための各種検査、治療を行います。  
 ■ 曜日/水 ■ 診療時間/ 14:00～16:00  
 ■ 紹介方法/完全予約制のため地域医療連携室経由でご予約ください。

## 紹介のポイント

月曜日～金曜日、各3診。再診は予約制、初診受付は午前11時00分まで。なお地域医療連携室を通じて初診の予約も可能です。神経疾患の救急外来は救命救急医のトリアージを経て神経内科当番医が診察します。

## スタッフ紹介

令和4年8月1日現在

担当医	職名	専門分野
道勇 学	病院長 教授 部長	神経内科学
齋木 英資	教授(特任)(兼務)	神経内科学 パーキンソン病
丹羽 淳一	教授(特任)(兼務) 病棟医長	神経内科学 脳卒中
川頭 祐一	准教授 副部長	神経内科学
岡田 洋平	准教授 副部長	神経内科学 分子神経生物学・幹細胞生物学
徳井 啓介	講師(兼務) 外来医長	神経内科学
福岡 敬晃	講師 医局長	神経内科学 神経疾患全般
中村 亮一	講師	神経内科学
田口宗太郎	助教(兼務)	神経内科学
安藤 宏明	助教(兼務)	神経内科学
湯浅 知子	助教(兼務)	神経内科学
伊藤 千弘	医員助教	神経内科学
中川 未久	医員助教	神経内科学

※日本神経学会専門医

担当医	職名	専門分野
小出 弘文	医員助教	神経内科学
黒田 典孝	専修医	神経内科学
木村 元哉	専修医	神経内科学
鈴木 宏幸	専修医	神経内科学
植澤 森	専修医	神経内科学
高橋 周治	専修医	神経内科学
泉 雅之	看護学部 教授(兼務)	神経内科学 パーキンソン病、脳卒中、認知症など
曾根 淳	加齢医学研究所 講師(兼務)	神経内科学 神経病理学、人類遺伝学
中尾 直樹	客員教授	神経内科学 脊髄小脳変性症、パーキンソン病、頭痛など
熱田 直樹	特命准教授	神経内科学
角田 由華	非常勤医師	神経内科学 神経疾患全般
藤掛 彰史	非常勤医師	神経内科学 神経疾患全般

# 腎臓・リウマチ膠原病内科

Nephrology and Rheumatology



部長  
石本 卓嗣

外来 | 中央棟4F 48外来

## 腎臓領域

慢性糸球体腎炎 (IgA腎症など)、ネフローゼ症候群 (微小変化型ネフローゼ症候群、膜性腎症、巣状糸球体硬化症など)、急速進行性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎、慢性腎臓病 (CKD)、糖尿病性腎臓病 (DKD)、腎代替療法 (血液透析、腹膜透析、腎移植)、急性腎障害 (AKI)、多発性嚢胞腎、小児腎臓疾患

## リウマチ膠原病領域

関節リウマチ、血管炎 (ANCA関連血管炎など)、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、炎症性疾患 (成人スチル病、ベーチェット病など)、IgG4関連疾患

## 得意とする疾患

## 診療科の特色

腎臓病の原因となる疾患は上記のように多彩です。当科では腎生検による腎臓病の原因疾患の診断に沿って最新の治療法を取り入れ、腎不全への進行を阻止すべく腎臓病の寛解を目標に治療しています。腎臓病は早期発見、早期治療により進行の予防をすることが重要です。検尿異常や原因不明の腎機能障害では積極的に腎生検を行い、正確な診断のもと最適な治療方法を提供しています。腎炎やネフローゼ症候群では最新の生物学的製剤による治療も可能です。蛋白尿が持続する場合や、腎機能の低下がみられる場合 (eGFR 45 ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満、40歳未満ではeGFR 60 ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満)は早めにご相談ください。また当院の特徴として、小児の方の腎臓病診療を専門のスタッフで行っております。

保存期CKDの管理については、地域の先生方のご意向に沿って併診・連携を行っております。腎教育入院は5泊6日を基本としますが、2泊3日も行っています。お時間のない方に向けて、CKD教育外来も開設しております。CKD教育・診療では、腎臓専門医、専門の看護師、栄養士、薬剤師による持続的なチーム医療を提供しております。検尿異常から腎炎治療、腎不全管理、腎代替療法の選択、血液透析・腹膜透析導入とその合併症治療、腎移植後の管理まで、連続的な疾患管理を目指しています。血液浄化療法も血液透析・腹膜透析・血液濾過・血漿交換療法など、多彩な治療法を行っています。CKDが進行した末期腎不全では、透析療法や移植などの腎代替療法が必要となりますが、当院では全ての治療法の提供が可能であり、治療選択においてはSDM (Shared decision making 意思決定の共有)を重要視しております。腹膜透析では積極的なチーム医療体制を構築し、週2回の外来診療を行っております。

リウマチ膠原病疾患は腎臓をはじめ、全身多臓器に病変が及びます。診断・治療が困難な場合が多く、的確な診断・多彩な治療法を駆使して対応しております。臓器病変の重症度を把握し、予後予測をして治療します。リウマチ膠原病疾患は分類される疾患が上記以外にも多くあります。ステロイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤を投与するにあたり、合併症リスク評価を重要視しています。高齢発症の関節リウマチの方が増加しており多くの合併症がある方も適切な治療を選択します。不明熱で診断が困難で悪性腫瘍、感染症を鑑別が必要とする症例、特に、血球貪食性リンパ組織球症も疑う病態の方も御紹介下さい。

当科では地域の先生方とも密着した連携をとり、患者さんのために最善の診断・治療を提供でき信頼される診療科であるよう日々努力して参ります。

## 診療内容

得意とする疾患	得意ないしは特徴のある診断、治療法
慢性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 急速進行性糸球体腎炎	腎生検による病理診断 ステロイド・免疫抑制薬療法 (シクロスポリン、シクロホスファミド、アザチオプリン、ミコフェノール酸など) IgA腎症の扁桃摘出ステロイドパルス療法 ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ療法 膜性腎症におけるPLA2R抗体の検出 LDLアフェレーシス、血漿交換 遺伝子検査
慢性腎臓病 (CKD)	SGLT2阻害薬・MR拮抗薬による治療 CKD教育外来 腎代替療法 選択外来 CKD教育入院 腎臓病栄養指導
慢性腎不全	腎代替療法 選択外来 適切な腎代替療法の提供 血液透析 腹膜透析 腎移植 (腎移植外科と連携し先行的腎移植も含めて)
多発性嚢胞腎	パゾプレッシン受容体拮抗薬 (トルバパタン: サムスカ) 治療
小児腎臓	腎生検による病理診断 腎炎、ネフローゼ症候群の治療 腹膜透析 血液浄化療法 腎移植 遺伝子検査
非典型溶血性尿毒症症候群	エクリズマブによる治療
関節リウマチ (早期リウマチ)	生物学的製剤治療 分子標的治療 (JAK 阻害薬) 合併症リスク評価、 既存合併症のある関節リウマチ治療
全身性エリテマトーデス 多発性筋炎・皮膚筋炎 全身性強皮症 混合性結合組織病	ステロイドパルス療法 シクロホスファミドパルス療法 免疫抑制薬療法 (ミコフェノール酸、アザチオプリン、タクロリムス、シクロスポリンなど) 生物学的製剤治療 (リツキシマブなど) 免疫吸着療法、血漿交換
全身性血管炎 高安動脈炎、巨細胞性動脈炎 顕微鏡的多発性血管炎、多発性血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発性血管炎性肉芽腫症、古典的結節性多発動脈炎	ステロイドパルス療法 リツキシマブ治療 シクロホスファミドパルス療法 血漿交換 ガンマグロブリン大量療法
各種膠原病の炎症性疾患 (成人スチル病、ベーチェット病 シェーグレン、IgG4関連疾患など)	ステロイド治療 免疫抑制治療 生物学的製剤治療

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

○外来患者数 (1日平均)	118.2人
○紹介患者数 (年間)	865人
○紹介率/逆紹介率	87.6%/159.0%
○入院患者総数	12,822人
○CKD(G3以上)289人、CKD教育入院 12人、糖尿病性腎症60人、ネフローゼ症候群 27人 IgA腎症 52人、多発性嚢胞腎 10人、急性腎障害 53人、腎盂腎炎 71人 関節リウマチ 62人、SLE 42人、多発性筋炎/皮膚筋炎 18人、血管炎 31人、強皮症 8人	
○血液透析導入	80人
○腹膜透析 (CAPD) 患者数	39人
○うち新規導入7人	
○腎移植 生体腎移植: 18人	
腎生検	
○腎病理診断	102症例
○移植後腎生検診断	61症例

## 専門外来

### 多発性嚢胞腎外来

多発性嚢胞腎で腎不全の進行を遅らせるトルバパタン (サムスカ) が2014年から保険適応になりました。多発性嚢胞腎に特化した専門外来となります。  
 ■月曜日 (予約制)  
 ■診療時間/午後  
 ■担当者/杉山浩一  
 ■紹介方法/多発性嚢胞腎が疑われる症例は腎臓内科外来に紹介してください。

### 腎生検外来

腎生検を行う患者さんに対して、検査方法などについて説明させていただく外来です。  
 ■月曜日 (予約制) 曜日が変更となる場合もあります。  
 ■診療時間/午後  
 ■担当者/交代制  
 ■紹介方法/通常の腎臓内科外来を受診してから予約になります。

## スタッフ紹介

担当医	職名	専門分野
石本 卓嗣	教授 部長	腎臓病 リウマチ膠原病
坂野 章吾	教授 (特任) 副部長	リウマチ膠原病
鬼無 洋	准教授 副医局長	腎臓病 リウマチ膠原病
野畑 宏信	准教授 (特任) 医局長, 医療安全	腎臓病 リウマチ膠原病
畔柳 佳幸	講師	小児腎臓病 小児腎不全
岩垣津志穂	講師 外来医長	腎臓病 リウマチ膠原病
山口 真	講師 病棟医長	腎臓病 リウマチ膠原病
杉山 浩一	助教 腎臓病センター	腎臓病 リウマチ膠原病
伊藤 真弓	助教	腎臓病 リウマチ膠原病
山本 理恵	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病
浅井 奈央	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病
北村 文也	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病
浅井 昭雅	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病

\* 日本腎臓学会専門医    b 日本腎臓学会指導医    # 日本透析医学会専門医    % 日本リウマチ学会専門医    j 日本リウマチ学会指導医

## 腹膜透析外来

腎不全で腹膜透析 (CAPD療法) を希望、又は治療中の患者さんのための外来です。  
 ■木曜日と金曜日 (予約制)  
 ■診療時間/午前  
 ■担当者/伊藤恭彦、鬼無洋、浅井昭雅、神谷圭介  
 ■紹介方法/地域医療連携室を通してご予約ください。

## 慢性腎臓病 (CKD) 教育外来

慢性腎臓病 (CKD) の患者様を対象とした教育を行います。専門スタッフが担当します。  
 ■金曜日 (予約制)  
 ■診療時間/午前  
 ■担当者/交代制 (専門スタッフ)  
 ■紹介方法/通常の腎臓内科外来を受診してから予約になります。

## 腎代替療法 選択外来

腎代替療法 (renal replacement therapy: RRT) の選択を必要とする患者様を対象とした外来診療です。専門のスタッフが担当します。  
 ■金曜日 (予約制)  
 ■診療時間/午前  
 ■担当者/交代制 (専門スタッフ)  
 ■紹介方法/通常の腎臓内科外来を受診してから予約になります。

## 紹介のポイント

- 検尿異常 (蛋白尿や血尿の持続。どちらかでも持続する場合はご紹介ください。)
- 腎臓機能低下・慢性腎不全 (eGFR 45 ml/min/1.73m<sup>2</sup>未満、40歳未満ではeGFR 60 ml/min/1.73m<sup>2</sup>未満) 血清クレアチニン値のみならず、eGFRの値でご検討ください。地域医療連携室を通して、ご予約いただくか直接外来へお越しください。今までに行われた検査結果のコピーがあれば紹介状に添付ください。転入院が必要な場合は、前日までに病棟医長に電話連絡下さい。
- 急性腎障害 地域医療連携室を通して、ご予約いただくか直接外来へお越しください。今までに行われた検査結果のコピーがあれば紹介状に添付ください。
- リウマチ・膠原病疾患 地域医療連携室を通して、ご予約いただき、なるべく事前予約をお願いします。

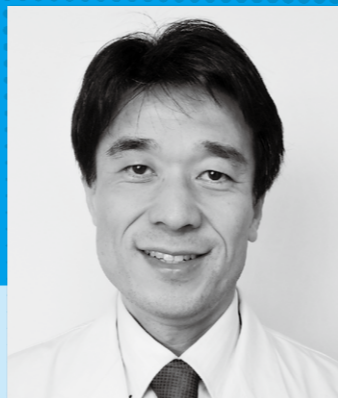
令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
神谷 圭介	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病
萩田純一郎	医員助教	腎臓病 リウマチ膠原病
田上 玄理	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
神戸 崇行	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
野田あゆみ	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
小笠原和輝	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
小堀ことの	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
西村美の里	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
西山 知江	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
孫 汀	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
石黒裕季子	専修医	腎臓病 リウマチ膠原病
伊藤 恭彦	特命教授	腎臓病 腎不全 リウマチ膠原病
久能木俊之介	非常勤医師	腎臓病 リウマチ膠原病



# 血液内科

Hematology



部長

高見 昭良

外来 | 中央棟3F 30外来

- 得意とする疾患
- 急性白血病
  - 悪性リンパ腫
  - 多発骨髄腫
  - 造血不全症 (骨髄異形成症候群・再生不良性貧血など)
  - 血栓・止血

## 診療科の特色

- 当科では血液疾患全般に対して最新のエビデンスにもとづいた診断と治療を提供できるよう努力しています。
- 外来診療は月曜日から金曜日、毎日初診を受け付けています。
- 対象となる症候、検査値異常、疾患は以下の通りです。

### 【症 候】

貧血、リンパ節腫脹、脾腫、原因不明の発熱、出血傾向など。

### 【検査値異常】

貧血、赤血球増加、白血球増加、白血球減少、好酸球増加、血小板減少、血小板増加、血清M蛋白の出現、凝固線溶系の異常など。

### 【対象疾患】

各種貧血（再生不良性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血、鉄欠乏性貧血、骨髄異形成症候群など）、各種白血病（急性白血病、慢性白血病）、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症、無顆粒球症、原発性マクログロブリン血症、血小板減少性紫斑病（特発性、血栓性）、血友病、血球貪食症候群、免疫不全症（AIDSを含む）など。

○ 特に造血器悪性腫瘍（白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の診療については、日本成人白血病研究グループ（JALSG）やJCOGリンパ腫グループ、名古屋BMTグループなどのわが国をリードする臨床研究グループに参加し、全国レベルの高い治療成績を得ています。

○ 当科では移植適応症例には積極的に移植を施行しています。移植や輸血治療については輸血部と連携を図り、治療成績の向上に努めています。

- 最先端の医療を提供する体制を整えていますが、高齢の方や合併症のある方などには、個々の病態に応じQuality of Life（QOL）を配慮した治療法も選択しています。また、治療法の選択にあたってはカンファレンスにて十分な検討を行っています。
- 臨床腫瘍センターにて安全で快適ながん化学療法を提供しております。外来でがん化学療法が可能となり、入院期間が短縮され、QOLのより一層の向上が図られます。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

- 外来患者数（1日平均） 51.4人
- 入院患者数（1日平均） 32.5人
- 新患として、年間に15例の急性白血病、35例の骨髄異形成症候群、50例の悪性リンパ腫、20例の多発性骨髄腫の化学療法を施行しています。
- 造血幹細胞移植については19件（自己末梢血幹細胞移植9件、同種移植10件）施行しています。
- 日本骨髄移植推進財団の骨髄採取指定病院になっており、骨髄提供者（ドナー）からの骨髄採取を3件施行しています。

## 特殊検査・治療／特殊医療機器

- 骨髄検査（骨髄穿刺あるいは骨髄生検）は月曜日～金曜日に施行しています。外来での検査も可能です。適応となる患者さんはまず血液内科外来にご紹介ください。
- 血液内科病棟（14B病棟）に造血細胞移植センターが設置されており、無菌病室を14床有しています。造血器悪性腫瘍の化学療法や重症再生不良性貧血の治療に無菌室を用い、治療成績を向上させています。

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野	担当医	職名	専門分野
タカミ 高見 昭良 ※	教授 部長	血液疾患一般	ススキ 鈴木 文乃 #	助教	血液疾患一般
ハナムラ 花村 一郎 ※	教授(特任) 副部長	血液疾患一般	カナスギ 金杉 ジョウ 丈	助教	血液疾患一般
ヤマモト 山本 ヒデスケ 英督 ※	准教授(特任) 医局長	血液疾患一般	マツムラ 松村 サオリ 沙織	医員助教	血液疾患一般
ミズノ 水野 ショウヘイ 昌平 ※	准教授(特任) 副医局長	血液疾患一般	シノハラ 篠原 サキ 早紀	医員助教	血液疾患一般
タカハシ 高橋美裕希	講師(兼務)	血液疾患一般	イイダ 飯田 ユウスケ 悠介	専修医	血液疾患一般
ホリオ 堀尾 トモヒロ 知弘 #	講師 病棟医長	血液疾患一般	マツヒサ 松久 アキフミ 明史	専修医	血液疾患一般
ムラカミ 村上 サツキ 五月 ※	講師 外来医長	血液疾患一般	イマイ 今井 ヒロカズ 裕一	名誉教授	アミロイドーシス
タカスギ 高杉 ソウイチ 壮一	助教	血液疾患一般	セト 瀬戸 マサオ 加大	客員教授	血液病理

#日本血液学会認定専門医 ※日本血液学会認定指導医

## 紹介のポイント

- 上記の症候、検査値異常、疾患についてお困りの際は、是非血液内科にご紹介ください。外来診療は月曜日から金曜日の午前に初診を受け付けています。初診受付は、午前8時30分から11時です。
- 急性白血病が疑われる場合、著しい出血傾向があるような緊急の場合には、日勤帯（午前8時30分から午後5時）であれば血液内科医局（電話0561-62-3311 内線23540）、それ以外の時間帯であれば当院プライマリケアセンター（電話0561-62-3311 内線35500）までご連絡くだされば対応させていただきます。
- セカンドオピニオンにつきましてもご相談に応じます。
- 特に専門外来は設けていませんが、各種血液疾患の診断と治療、および造血幹細胞移植などの高度先進医療について、いずれの外来日でも対応は可能です。

# 糖尿病内科／糖尿病センター

Diabetes/Diabetes Center



部長  
神谷 英紀

外来 | 中央棟 2F 28外来

得意とする疾患 | ● 糖尿病患者（教育入院、合併症の評価、治療方針の相談など）

## 診療科の特色

糖尿病患者数が激増している今日、その発症予防が重要な課題であることは言うまでもありません。また、様々な糖尿病性合併症により糖尿病患者のQOLが著しく低下するとともに生命予後が不良となることも周知の事実です。然るに、多くの糖尿病患者が実在していることを考えれば、対糖尿病戦略の主眼は合併症の発症・進展を阻止することに注がれるべきであると言っても過言ではありません。合併症の発症・進展を阻止するためには、厳格な血糖コントロールを糖尿病発症早期から、且つ長期に亘って維持することが重要であることは、近年の大規模臨床研究により明らかとなっています。一方、厳格な血糖コントロールを試みる上で、合併症の有無および重症度は治療法の選択に影響を及ぼす重要な因子であると同時に、ひとつの合併症の治療を行う上でも他の合併症の存在が問題となります。合併症を有する糖尿病患者は、複数の診療科でフォローされていることが多く、関連する各診療科が密接に連携して診療にあたる必要があります。また、長期間に亘りより良い療養生活を送るためには、糖尿病を専門とするメディカルスタッフによる療養指導が不可欠であります。

愛知医科大学病院では「糖尿病内科／糖尿病センター」が開設され11年が経ち、より良質な糖尿病診療を提供できる体制を構築することを目標に診療を行っております。現時点（令和4年7月1日）では、糖尿病内科スタッフは22名（教授1名、准教授1名、講師3名、助教2名、医員助教11名および専修医4名）ですが充分とはいえ、外来診療も内科外来の一画で行っているに過ぎず、「糖尿病内科／糖尿病センター」を名乗るに相応しいものではありませんが、出来る限り早

い時期にハードおよびソフトの両面で「糖尿病内科／糖尿病センター」の名に相応しい組織を作り上げていきたいと考えております。特に、「糖尿病合併症外来」を開設し、細小血管障害（神経障害、網膜症、腎症）のみならず大血管障害（動脈硬化症）をも含めたあらゆる糖尿病性合併症の検索が半日程度で完了できるようなシステムを構築したいと考えております。お忙しい日常診療の中で、先生方ご自身が糖尿病性合併症を定期的にチェックすることは難しいのが現状かと思われます。「糖尿病合併症外来」へ年に1回の受診をしていただくことにより、糖尿病性合併症の実態を正確に把握することが可能となります。同時に、食事指導を含めた療養指導を受けていただくことも可能です。地域の先生方から直接ご予約いただき、終了後のレポートに治療に関する提言を付けさせていただき、今後の診療の参考にさせていただけるものにと考えております。また、糖尿病センター内に「臨床研究部門」を設置し、愛知医科大学糖尿病センターからの新たなエビデンスを発信していきたいと考えており、その際には先生方のご協力をお願いすることも多々あるかと思われまので、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

○ 外来患者数（1日平均）	88.4人/日
○ 入院患者数（1日平均）	11.1人/日

## 紹介のポイント

現時点（令和4年7月1日）での外来担当医表は以下の通りです。

月曜日：恒川 新、加藤宏一（客員教授）、茂木幹雄、内原夕貴

火曜日：近藤正樹、加藤 誠、山田有理子、舟橋夕貴子

水曜日：中村二郎、森下啓明、山田祐一郎、清瀬俊樹

木曜日：神谷英紀、三浦絵美梨、下田博美、林 優佑

金曜日：神谷英紀、加藤義郎、姫野龍仁、浅野紗恵子

紹介状をお書きいただく際は、「糖尿病内科」または「糖尿病センター」と明記いただけますようお願い申し上げます。

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

### 糖尿病内科／糖尿病センター

担当医	職名	専門分野
カミヤ ヒデキ 神谷 英紀	教授 部長	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
ツネカワ シン 恒川 新	准教授 副部長	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
コンドウ マサキ 近藤 正樹	講師	糖尿病内科学
ヒメノ タツヒト 姫野 龍仁	講師	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
モリシタ ヨシアキ 森下 啓明	講師	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
ミウラ エミリ 三浦絵美梨	助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
ヤマダ ユウイチロウ 山田祐一郎	助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
シモダ ヒロミ 下田 博美	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
アサノ サエコ 浅野紗恵子	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
カトウ マコト 加藤 誠	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
アサノ エミ 浅野 栄水	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
モテギ ミキオ 茂木 幹雄	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
マツオカ ミカ 松岡 実加	医員助教	糖尿病内科学
ヤマダ ユリコ 山田有理子	医員助教	糖尿病内科学

担当医	職名	専門分野
ハヤシ ユウスケ 林 優佑	医員助教	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
キヨセ トシキ 清瀬 俊樹	医員助教	糖尿病内科学
ウチハラ ユキ 内原 夕貴	医員助教	糖尿病内科学
イシカワ マイ 石川 舞	医員助教	糖尿病内科学
キムラ キンヨウ 木村 紀翔	専修医	糖尿病内科学
イタニ アツオ 猪谷 淳夫	専修医	糖尿病内科学
イトウ アヤコ 伊藤 彩子	専修医	糖尿病内科学
シミズ トオル 清水 徹	専修医	糖尿病内科学
ナカムラ ジロウ 中村 二郎	名誉教授	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
カトウ ヨシロウ 加藤 義郎	教授(特任) (兼務)	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医・研修指導医)
カトウ コウイチ 加藤 宏一	客員教授	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
ハヤミ トモヒデ 速水 智英	助教(兼務)	糖尿病内科学(日本糖尿病学会専門医)
フナハシ ユキコ 舟橋夕貴子	非常勤医師	糖尿病内科学

関連各科の医師および糖尿病療養指導資格を有するメディカルスタッフを糖尿病センターのスタッフとして迎える予定です。

# 精神神経科

Neuropsychiatry



外来 | C棟3F 精神神経科外来

部長

兼本 浩祐

得意とする疾患

- てんかん
- クロザリル適応の統合失調症
- 認知症
- 感情障害難治例
- 時効性注射剤治療を希望する統合失調症患者
- 身体合併症を有する精神科疾患
- 器質性精神病など

## 診療科の特色

内因性精神病（統合失調症・感情障害）や各種神経症・身体因性精神障害・てんかん等の精神科対象疾患に対して適切な対応ができる体制を整え診療しています。

外来診療は午前中に4～5名の外来担当医がスタンダードな診断・治療を行っています。入院診療は中堅以上の医師と若手の医師が共同で主治医となり病棟看護師と協力し入院治療を行っています。

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

○外来患者数（1日平均）	107.0人
○入院数（1日平均）	18.8人
総合失調症	約35%
感情障害	約30%
各種神経症	約20%
てんかんを含む身体因性精神障害	約15%

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
カネモト 兼本 浩祐 #**\$	教授 部長	精神病理学 神経心理学 臨床てんかん学
モリ 森 ヤスヒロ 康浩 #**	准教授 副部長 医局長	臨床精神薬理学
サクライ コウタロウ 櫻井高太郎 #**\$	准教授 副部長	臨床てんかん学
フカツ 深津 タカヒデ 孝英 #**	講師 病棟医長	老年精神医学
タドコロ ユカリ 田所ゆかり #**\$	講師 外来医長	臨床てんかん学
ゴウジ 郷治 ヒロコ 洋子 #**	講師	精神医学一般
カワイ ミホコ 河合三穂子 #	講師	精神医学一般
ヤマザキ 山崎 ヒトミ 仁美 #**	助教	精神医学一般
サジ 佐治 モモエ 木萌 #	助教	精神医学一般

#日本精神神経学会専門医 ※日本精神神経学会指導医 \$日本てんかん学会認定医

## 紹介のポイント

神経症は穏和精神安定剤による薬物療法と精神的な葛藤を洞察してゆく精神療法を併用し、症状の軽快を図っています。感情障害はその多くが抗うつ剤等の薬物投与で改善していますが、難治のケース等では修正型電気けいれん療法も施行しています。

統合失調症には、急性発症タイプと慢性経過タイプとがあり、前者は抗精神病薬により2～3ヶ月で軽快することが多いですが、後者の治療成績は残念ながらあまり良くありません。しかし、近年発売されている新薬の使用や、レクリエーションを行って治療を行い一定の成果を挙げています。

アルコール嗜癖の場合、原則として断酒会のある治療施設を紹介しています。

# 小児科

Pediatrics



部長

奥村 彰久

外来 | 中央棟 2F 23外来

- てんかん ● 白血病・固形腫瘍 ● 乳児血管腫 ● 食物アレルギー ● アレルギー性鼻炎
- アトピー性皮膚炎 ● 気管支喘息 (重症) ● 川崎病 ● 腎炎 ● ネフローゼ ● 腎尿路異常
- 末期腎不全 ● 透析 ● 腎移植 ● 低身長 ● 甲状腺機能亢進症 (バセドウ氏病)
- 甲状腺機能低下症 (クレチン症) ● 思春期早発症・遅発症 ● 糖尿病 (1型、2型)
- 副腎皮質過形成 ● 肥満 ● MCT8異常症 ● 脊髄性筋萎縮症
- 炎症性腸疾患 (クローン病、潰瘍性大腸炎) ● 慢性便秘・遺糞症 ● 異物誤飲 ● 結節性硬化症
- 夜尿症 ● 點頭てんかん

得意とする疾患

## 診療科の特色

肺炎や胃腸炎などの一般的な病気から、てんかんや白血病などの専門的な知識が必要な病気まで、幅広くこどもの病気に対応しています。特に神経疾患、アレルギー疾患、血液・腫瘍、膠原病、川崎病、腎疾患、新生児の診療に力を注いでいます。高度救命救急センターと連携して24時間体制で小児救急を担うとともに、地域の開業医さんとの病診連携や近隣の病院との病病連携も積極的に行っています。発作時脳波や遺伝学的検査を応用したてんかんの診療、食物アレルギーの経口負荷試験、全国の研究グループ (JPLSG) の一員としての白血病・悪性腫瘍の診療など、先進的な医療も行っていきます。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

外来の患者さんは月平均1,560名で、なかでも神経疾患やアレルギー疾患のこどもがたくさん受診しています。入院患者さんは939名で、肺炎や胃腸炎などの感染症が多いですが、神経疾患・アレルギー疾患・血液・腫瘍・川崎病・腎疾患などの専門的な治療を行ったこどももたくさんいます。在院日数は1週間以内のこどもが78.9%であり、可能な限り入院期間を短くするよう努力しています。

## 特殊検査・治療/特殊医療機器

- (1)発作時脳波ビデオ同時記録を用いるてんかん診断
- (2)てんかん・小児神経疾患の遺伝学的解析
- (3)食物抗原負荷試験 (open法)
- (4)急性リンパ性白血病における微小残存病変の分子生物学的検索
- (5)川崎病の病態解析
- (6)重症便秘症に対する造影剤注入による便塞栓除去術

## 専門外来

### 神経外来

こどもの神経疾患は、熱性けいれんやてんかん、発達の遅れ、脳性麻痺、結節性硬化症などの先天的な疾患、重症筋無力症などの自己免疫疾患、急性脳症などの炎症性疾患などたくさんあります。気になる症状をお持ちのお子さんは気軽に相談してください。

■ 曜日/月・火・水・木・金 (隔週)  
 ■ 診療時間/月:13:00 ~ 16:30 火:9:00 ~ 11:30  
 水: 9:00 ~ 11:30 木:9:00 ~ 11:30  
 金: 9:00 ~ 11:00

■ 担当者/火・木:奥村 彰久  
 月・金 (第2、4週):倉橋 宏和  
 水 (第1、3、5週):沼本 真吾  
 木 (第2、4週):東 慶輝

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### アレルギー外来

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患の診断、薬物療法、経口免疫療法による治療にあたります。

■ 曜日/月・水・木・金  
 ■ 診療時間/月:13:30 ~ 16:30  
 水: 9:00 ~ 11:30、13:30 ~ 16:30  
 木:13:30 ~ 16:30 金:14:30 ~ 16:00

■ 担当者/月 (午後):縣 裕篤 水 (午前・午後):縣 裕篤  
 水 (午後):新川 成哲 木 (午後):武藤 太一朗  
 金 (午後):宗宮 弘明

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 小児リウマチ外来

若年性特発性関節炎 (若年性関節リウマチ)、全身性エリテマトーデスなどの膠原病 (リウマチ、免疫性) 疾患、不明熱の診断・治療にあたります。

■ 曜日/木 (第2週)  
 ■ 診療時間/木:13:30 ~ 16:00

■ 担当者/北川 好郎

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 血液腫瘍外来

貧血などの血液疾患や白血病、リンパ腫、固形癌などの悪性腫瘍の診断・治療を行っています。

■ 曜日/月・木 ■ 診療時間/月・木:9:00 ~ 11:30

■ 担当者/堀 壽成

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 腎外来

浮腫、高血圧、検尿や尿路感染症などで発見される各種腎臓病に対して、専門医の観点より適切な診断、治療および管理を行っています。腎予後を改善するために早期よりの介入が重要な疾病群です。急性期より慢性期、軽症から重症までの病態を対象としており、透析や腎移植も行っていきます。腎臓内科と連携を行い円滑な成人移行を進めています。

■ 曜日/月 (第1、3週) 火・水・金  
 ■ 診療時間/月: 9:00 ~ 11:30 (第1、3週)  
 火: 9:00 ~ 11:30、14:00 ~ 16:00  
 水:14:00 ~ 16:00、金: 9:00 ~ 11:30

■ 担当者/火 (午後):永井 琢人  
 月 (第1、3週)・水:山川 紀世志  
 火 (午前)・金:畔柳 佳幸

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 乳児検診

新生児から9歳までの検診を行います。精神運動発達のチェックと栄養相談、子育てに関する簡単な相談を行っています。

■ 曜日/月 ■ 診療時間/ 13:30 ~ 15:30

■ 担当者/山田 恭聖

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 循環器外来

出生後に診断された先天性心疾患、不整脈などの循環器的疾患のみでなく、胎児心エコーも行っています。また、幼少期から管理されている患者が成人となった成人先天性心疾患患者についても診療を行っています。

■ 曜日/循環器外来:火・木、胎児心エコー:木  
 ■ 診療時間/循環器外来:火:9:00 ~ 11:30、木:13:30 ~ 16:30  
 胎児心エコー外来:木:10:00 ~ 11:00

■ 担当者/循環器外来:火:馬場 礼三 木:森 啓充  
 胎児心エコー外来:森 啓充、近藤 知子 (第4週)

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

## 紹介のポイント

小児疾患全般に対応しています。各々の専門外来にご予約くださるか、まず初診外来にご紹介くだされば、その後に振り分けます。また、緊急の場合は午後の時間外でも対応可能です。

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
オクムラ アキヒサ 奥村 彰久	教授 部長	小児神経
アガタ ヒロアツ 縣 裕篤	教授(特任) 副部長	小児アレルギー
ホリ トシノリ 堀 壽成	准教授 副部長 医局長	小児血液・腫瘍
クラハシ ヒロカズ 倉橋 宏和	講師 病棟医長	小児神経
イワヤマ ヒデユキ 岩山 秀之	講師 外来医長	小児内分泌
アズマ ヨシテル 東 慶輝	講師	小児神経
クロヤナギ ヨシユキ 畔柳 佳幸	助教(兼務)	小児腎臓
モリ ヒロミン 森 啓充	助教	小児循環器
ケンマ ヒロニ 本間 仁	助教	小児消化器
ミヤモト リョウスケ 宮本 亮佑	助教	小児消化器
ヤマカワ キヨシ 山川紀世志	助教	小児腎臓
ヌモト シンゴ 沼本 真吾	助教	小児神経
ナカムラ ナミ 中村 奈見	医員助教	新生児

※日本小児科学会専門医 %日本小児科学会指導医 b日本小児神経学会専門医  
 !日本血液学会専門医 &日本血液学会指導医 \$日本腎臓学会専門医・指導医

### 内分泌外来

低身長、甲状腺機能亢進症 (バセドウ氏病)、甲状腺機能低下症 (クレチン症)、思春期早発症・遅発症、糖尿病 (1型、2型)、副腎皮質過形成、肥満などを担当いたします。

■ 曜日/水 (第2、4週)・木 (第1、4週)  
 ■ 診療時間/水 (第2、4週):9:00 ~ 11:30  
 木 (第2、4週):9:00 ~ 11:30  
 木 (第1、4週):13:00 ~ 15:00

■ 担当者/水 (第2、4週)・木 (第1、4週) 午後:岩山 秀之  
 木 (第2、4週) 午前:北川 幸子

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 消化器外来

便秘症、過敏性腸症候群、ピロリ菌感染症、炎症性腸疾患、異物誤飲などの疾患を対象とし、消化管内科と連携しながらお子さんにも内視鏡検査を実施しています。

■ 曜日/水・金  
 ■ 診療時間/水 (第1、3、5週):8:30 ~ 11:00  
 金 (第1、3、5週):8:30 ~ 16:00  
 金 (第2、4週):13:30 ~ 16:00

■ 担当者/金 (第1、3、5週):宮本 亮佑  
 水 (第1、3、5週)・金 (第2、4週):本間 仁

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

### 小児外科外来

手術の必要なこども達に対して専門医が診療にあたります。主に鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、停留精巣、肛門周囲膿瘍、便秘症、急性虫垂炎、腸重積などの腹部救急疾患、新生児疾患、腫瘍 (神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫) などを対象としています。診断を確実にすること、手術を迅速かつ正確に行うこと、術後のQOLの向上を心がけています。腹腔鏡を用いた新しい鏡視下手術も積極的にとり入れています。各科および周辺医療機関とも連携をとり、患児にとって最善の治療が行えるよう努めています。

■ 曜日/月・木・金  
 ■ 診療時間/ 8:30 ~ 11:00

■ 担当者/月・木:金子 健一郎、金:近藤 玲美

■ 紹介方法/地域医療連携室を通して、ご予約ください。

担当医	職名	専門分野
サダ ジン 佐田 惇	専修医	小児一般
カワハラ コウヘイ 河原 幸平	専修医	小児一般
フカツ リョウヘイ 深津 亮平	専修医	小児一般
ムラセ ヒロキ 村瀬 博季	専修医	小児一般
オオタ コウキ 太田 航貴	専修医	小児一般
ハマダ エイゴ 濱田 英五	専修医	小児一般
ハバ レイソウ 馬場 礼三	* 非常勤	小児循環器
ナガイ タクヒト 永井 琢人	非常勤	小児腎臓
キタガワ サチコ 北川 幸子	* 非常勤	小児内分泌
ムトウ タイチロウ 武藤太一朗	非常勤	小児アレルギー
キタガワ ヨシロウ 北川 好郎	非常勤	小児リウマチ
アラカワ ナリアキ 新川 成哲	* 非常勤	小児アレルギー
ソウミヤ ヒロアキ 宗宮 弘明	非常勤	小児アレルギー

△日本アレルギー学会専門医 #日本アレルギー学会指導医

# 消化器外科

Gastroenterological Surgery



部長  
佐野 力

外来 | 中央棟3F 31外来

得意とする疾患 | ●肝内・肝門部を含めた胆管癌 ●膵癌 ●食道癌  
●胃癌及び大腸癌 ●尿管ヘルニア ●胆石 ●肥満手術

## 診療科の特色

消化器外科は、肝胆膵、消化管疾患に対して悪性腫瘍（癌）を主体に外科治療を中心に行っています。胆石症や炎症性疾患などの良性疾患や急性腹症などの救急疾患の治療も積極的に行っています。肝切除症例数はこの地域では有数で、肝癌に対して肝切除をはじめ、ラジオ波、マイクロ波焼灼術、肝動脈塞栓術などを合理的に組み合わせて予後とQOL（生活の質）の改善に努めています。また食道癌、胃癌、大腸癌の症例数も多く、正確な診断とそれに基づく最適な治療を提供できるよう診療に当たっています。胆嚢摘除術のみならず食道疾患、胃切除、大腸切除、肝切除、膵切除、ヘルニア修復、高度肥満症、GERD、にも根治性を損なわず低侵襲な手術である腹腔鏡手術を導入し、入院期間の著明な短縮が達成されています。

進行癌、再発癌に対しては、副作用の少ない効果的な化学療法を実践し良好な成績を得ています。

## 診療内容

### ○肝臓疾患

出血量を極力減少させて安全性を高め、根治性と両立させることで成績の向上を目指しています。

さらに最近では小さな腫瘍に対する低侵襲手術として、腹腔鏡を応用した肝切除も手掛けており、症例数は全国有数です。肝切除以外にもラジオ波・マイクロ波焼灼、肝動脈塞栓（TAE）、肝動注化学療法を行い、切除不能患者の延命とQOLの向上に努めています。

### ○食道疾患

食道癌は主に鏡視下（胸腔鏡・腹腔鏡）で治療を行います。

また、食道裂孔ヘルニアやGERDなどの診断、治療（バルーン拡張、ステント挿入、手術）を行い、腹腔鏡手術も導入しています。

### ○胃疾患

術後のQOLを重視し、過不足のない手術を選択し、癌の根治性と術後の臓器機能温存を課題目標とし、積極的に治療にあたっています。高度進行癌症例に対しては、術前の化学療法を行い治療成績の向上に努めています。早期胃癌症例では、腹腔鏡下手術を行っており、鏡視下のもと標準的胃切除術に、胃の機能温存を目的とした幽門輪温存術、局所切除術など侵襲の少ない手術療法を行っており、ロボット支援手術症例数も増加しています。

### ○高度肥満症

手術によってリバウンドを防ぐ、スリーブ状胃切除術を腹腔鏡で行い良好な成績をあげています。

### ○胆石 尿管ヘルニア

これら良性疾患についても内視鏡外科学会技術認定医が最善の治療を行うように努めています。

### ○大腸・小腸疾患

結腸癌の切除率は高く、直腸癌症例は肛門機能を温存し人工肛門を極力回避することに努めています。また、人工肛門が必要な症例に於いても神経温存を行い排尿、性機能障害を可及的に避け、癌の根治性を損なわない手術を積極的に行っています。

大腸癌に於いて腹腔鏡下手術は今や標準術式となりつつあり70%以上の症例を腹腔鏡下手術で行っており在院日数の短縮に寄与しています。

### ○膵・胆道系疾患

膵頭部癌に対しては、術後のQOLを考慮し、亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を行っています。膵良性疾患や悪性度の低い腫瘍に対しては、膵機能をなるべく温存し、腹腔鏡下手術を含めた術式を選択しています。いずれの症例も拡大手術のみならず、根治切除不能例には積極的に新しい化学療法を併用し、予後とQOLの改善に努力しています。

### ○小児外科疾患

手術の必要な子ども達に対して専門医が診療にあたります。主に尿管ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、停留精巣、肛門周囲膿瘍、便秘症、急性虫垂炎、腸重積などの日常的疾患、新生児疾患、肺嚢胞性疾患、胆道疾患、腫瘍（神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫）などを対象としています。診断を確実にすること、手術を迅速かつ正確に行うこと、術後のQOLの向上を心がけています。腹腔鏡を用いた新しい鏡視下手術も積極的にとり入れています。各科および周辺医療機関とも連携をとり、患児にとって最善の治療が行えるよう努めています。

## 紹介のポイント

月曜日から金曜日まで毎日初診を受け付けており、肝胆膵疾患はもとより、食道から肛門までのすべての消化管や、脾臓および門脈系のあらゆる消化器疾患にも対応が可能です。悪性腫瘍（癌）の診断治療は他科と密に連携し、常に最先端の医療を提供しています。

また、手術以外の検査、診断、治療方針など不安な点も気軽に担当医へご相談ください。担当医は専門分野を中心に診療や治療をしていますが、日程の合わない場合はご紹介いただいた曜日の初診の担当医が対応させていただいたうえで、専門医への診察へ変更させていただきます。

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

○外来患者数（1日平均）	67.4人
○入院患者数（1日平均）	45.3人
○手術症例数	1,216例

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
サノ ツヨシ 佐野 力	教授 部長	消化器外科 肝・胆・膵外科
カネコ ケンイチロウ 金子健一郎	教授(特任) 副部長	小児外科全般、新生児外科、小児内視鏡外科
コマツ シュンイチロウ 小松俊一郎	教授(特任) 副部長	消化器外科(大腸) 内視鏡外科・ロボット外科
フカミ ヤスユキ 深見 保之	講師 医局長・外来医長・病棟医長	消化器外科(肝・胆・膵) 内視鏡外科・ロボット外科
サイトウ タクヤ 齊藤 卓也	講師	消化器外科(胃・食道・肥満・ヘルニア) 内視鏡外科・ロボット外科
マツムラ タツキ 松村 卓樹	助教	消化器外科、下部消化管外科、内視鏡外科
オオサワ タカアキ 大澤 高陽	助教	消化器外科(肝・胆・膵) 内視鏡外科
シノハラ ケンタロウ 篠原健太郎	助教	消化器外科、一般外科
コンドウ レミ 近藤 玲美	助教	消化器外科、一般外科、小児外科
ウチノ タイリン 内野 大倫	助教	消化器外科、一般外科
ヤスイ コウヘイ 安井 講平	助教	消化器外科、一般外科
クニトモ アイナ 國友 愛奈	助教	消化器外科、一般外科
スズキ ケンタ 鈴木 健太	助教	消化器外科、一般外科
ハナザワ タカアキ 花澤 隆明	医員助教	消化器外科、一般外科
フクヤマ タカヒロ 福山 貴大	医員助教	消化器外科、一般外科
マツシタ ノゾミ 松下 希美	医員助教	消化器外科、一般外科
クラハン タケヒロ 倉橋 岳宏	医員助教	消化器外科、一般外科
シライ シンタロウ 白井信太郎	医員助教	消化器外科、一般外科

#日本消化器外科学会専門医 ※日本消化器外科学会指導医 \$日本小児外科学会専門医・指導医

# 心臓外科

Cardiac Surgery



部長  
松山 克彦

外来 | 中央棟 2F 28外来

得意とする疾患 | ● 虚血性心疾患 ● 大血管疾患 ● 弁膜症 ● 不整脈外科

## 診療科の特色

今後、戦後最大の高度高齢化社会を迎える中、心臓、大血管疾患がさらに増えることが予想されます。当科では、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患など主に成人心臓血管外科領域を幅広く診療しています。

急性心筋梗塞や不安定狭心症などの急性冠症候群や、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの急性大動脈症候群などの急性疾患に対しても昼夜を問わず24時間体制で対応しています。当科は循環器内科との関係が非常に良好であり、緊急カテーテル治療あるいは冠動脈バイパス術がスムーズに行えます。

当院の一番の特徴は、低侵襲心臓手術（MICS）を積極的に行い、弁膜症手術は全体の95%以上をMICSで行っていることです。大動脈弁、僧帽弁、三尖弁、不整脈手術の同時手術もMICSで行っており、全国的にも珍しい施設となっています。また、冠動脈バイパスもMICSとカテーテル治療のハイブリッド治療も増加しています。

大学病院として高度先進医療を確立しつつも、着実な医療を行い、合併症を減らし、術後の早期回復、早期退院を目指します。

## 診療内容

### ○虚血性心疾患

人工心臓を使用しない低侵襲冠動脈バイパス術を基本に行います。かつ、動脈グラフトを多用し、遠隔期の開存率を向上させます。左室破裂、心室中隔穿孔など心筋梗塞合併症に対しても迅速に対応します。

### ○弁膜症

僧帽弁疾患においては、弁形成術を基本に治療します。大動脈弁においても適応があれば大動脈基部置換を伴う弁形成術を行います。高齢者の大動脈弁狭窄症に対して平成29年6月より経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）を行っています。

### ○大動脈疾患

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂など、緊急手術においては、様々な工夫を行い、脳合併症を減らし、確実な手術を行います。

## 診療・治療・検査実績 (令和3年度)

総手術件数	150件
○冠動脈バイパス術 (単独)	31件
○弁膜症手術	54件
○大血管手術	28件
○TAVI	28件
○その他	9件

## 紹介のポイント

週3回の予定手術がありますが、手術中以外は、受け入れ可能です。急ぐ症例であれば、直接、心臓外科に連絡いただければ、迅速に対応させていただきます。

## スタッフ紹介

令和4年8月1日現在

担当医	職名	専門分野
マツヤマ 松山 克彦	教授 部長	冠動脈外科 弁膜症外科 大動脈外科 不整脈外科 (日本心臓血管外科学会専門医、日本外科学会外科認定医・専門医・指導医、 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構修練指導医、 日本循環器学会循環器専門医、日本胸部外科学会認定医・指導医)
フタヌキ 綿貫 博隆	准教授 医局長 病棟医長 外来医長	心臓血管外科全般 (日本外科学会外科専門医、日本心臓血管外科学会専門医)
トチイ 栃井 将人	講師	心臓血管外科全般 (日本外科学会外科専門医・指導医、日本心臓血管外科学会専門医、 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構修練指導医、TAVI指導医)
スギヤマ 杉山 佳代	講師	心臓血管外科全般 (日本心臓血管外科専門医、日本外科学会専門医、 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構修練指導医、 日本循環器学会循環器専門医、脈管専門医)
コイワ 小岩 大介	診療看護師	



# 血管外科

Vascular Surgery



部長

石橋 宏之

外来 | 中央棟 2F 28外来

得意とする疾患

- 腹部大動脈瘤 胸部大動脈瘤 大動脈解離 ● 下肢静脈瘤
- 閉塞性動脈硬化症 末梢動脈疾患 ● 頸動脈狭窄 ● 内臓動脈疾患

## 診療科の特色

全国大学病院でも数少ない血管外科を専門とした診療科です。教室の基本的理念である「客観的評価に基づく治療方針の決定」に則って、患者さんに大きな恩恵を与えられるように努力しています。従来からの血管外科手術だけでなく、カテーテルを用いた大動脈瘤ステントグラフト手術、経皮的動脈拡張/ステント留置（カテーテル治療）、静脈瘤レーザー焼灼を積極的に行っています。スタッフ9名のうち、心臓血管外科専門医5名、ステントグラフト指導医6名、下肢静脈瘤レーザー焼灼指導医4名がいます。

### 【理念】

- 客観的評価に基づく治療方針の決定に則って、患者さんに大きな恩恵を与えられるよう努力します。
- 末梢血管外科学の目指すところは、病変の形態的修復ではなく、障害された循環を機能的に回復させることにあるとの考えに沿った治療を心がけると共に、低侵襲カテーテル治療の積極的応用に努力します。
- 血管外科学の臨床は各科との緊密な関係の上に成り立つことを認識しながら診療にあたります。

## 診療内容

- 大動脈瘤**  
最新鋭のハイブリッド手術室で、大動脈瘤に対してステントグラフト手術を積極的に行っています。腹部大動脈瘤は8割をステントグラフト手術で、2割を従来の人工血管置換で治療しています。胸部では、遠位弓部/下行大動脈瘤だけでなく、大動脈解離（急性/慢性B型）に対しても積極的にステントグラフトで治療しています。
- 末梢動脈疾患**  
従来、閉塞性動脈硬化症と称されてきた疾患です。主要症状である間歇性跛行のすべてに手術が必要なわけではありません。多くの跛行に対して運動療法が有効であることを全国に広く啓蒙してきました。手術が必要な場合には、カテーテル治療（バルーン拡張/ステント留置）、バイパス手術を病変に応じて行っています。
- 透析患者の重症下肢虚血**  
透析導入の高齢化、糖尿病腎症による透析例増加により、長期透析患者では下肢虚血性潰瘍を有する方が多くおられます。透析患者の末梢動脈疾患は、従来の閉塞性動脈硬化症と全く異なった病態で、フットケア、カテーテル治療、下腿末梢（ディスタル）バイパスを駆使して治療しています。
- 下肢静脈瘤の治療**  
病態に応じて、レーザー焼灼、ストリッピング、高位結紮、硬化療法を用いて治療しています。現在では約80%がレーザー焼灼です。
- 頸動脈手術**  
欧米の病院と同じように血管外科医が頸動脈内膜摘除を行っている、全国的にも特記すべき施設です。最近ではeversion CEA（外翻式内膜摘除）を採用して低侵襲的に治療しています。特にリスクがなければ、頸動脈ステントより外科的内膜摘除の方が手術成績は良好なことが明らかとなつて

- います。
- バージャー病  
本邦では数少ないバージャー病専門施設であり、全国から多くの患者が訪れています。これまで250名以上の患者が登録されています。

## 特殊血管機能検査

- 足関節血圧測定（ドプラー）
- デュプレックス超音波
- トレッドミル
- 経皮的酸素分圧測定（TcPO<sub>2</sub>）
- 皮膚灌流圧測定（SPP）
- 空気容積脈波法（APG）

## 診療・治療・検査実績（令和3年度）

腹部大動脈瘤手術 （うちステントグラフト手術 64例）	72例
胸部ステントグラフト手術	31例
末梢動脈バイパス	26例
下肢静脈瘤手術	29例
経皮的動脈拡張・ステント留置術	30例
内シャント手術	14例

## 紹介のポイント

血管に関連するすべての疾患（除：頭蓋内、心臓）を診療します。

外来日：火曜日、水曜日、木曜日、金曜日

## スタッフ紹介

令和4年7月1日現在

担当医	職名	専門分野
イシハシ 石橋 宏之 <sup>※%b</sup>	教授 部長	①血管疾患全て ②大動脈ステントグラフト ③末梢動脈疾患カテーテルインターベンション
スキモト 杉本 郁夫 <sup>※%b</sup>	教授(兼務)	①血管疾患全て ②末梢動脈疾患に対する運動療法 ③創傷処置とフットケア
コダマ 児玉 章朗 <sup>※%b</sup>	准教授	①血管疾患全て ②末梢動脈疾患治療 ③大動脈ステントグラフト
オリモト 折本 有貴 <sup>※%b</sup>	准教授(特任) 医局長 外来医長	①血管疾患全て ②大動脈ステントグラフト ③末梢動脈疾患治療 ④下肢静脈瘤レーザー焼灼術
マルヤマ 丸山 優貴 <sup>%b</sup>	助教 病棟医長	①血管疾患全て
イマエダ 今枝 佑輔 <sup>※%b</sup>	助教	①血管疾患全て
ミツオカ 三岡 裕貴 <sup>%b</sup>	助教	①血管疾患全て ②リンパ浮腫
アリマ 有馬 隆紘	医員助教	①血管疾患全て
カイ 甲斐 貴之 <sup>※%b</sup>	医員助教	①血管疾患全て ②救急治療

※日本心臓血管外科専門医    %日本外科学会専門医    b日本脈管学会認定脈管専門医